令和6年度 第2回 藤沢市障がい者総合支援協議会 会議録

日時：2024年（令和6年）10月10日（木）午前10時から12時まで

会場：藤沢市役所本庁舎5階 5-1、5-2会議室

委員：齊藤代表、鈴木副代表、山本委員、種田委員、新城委員、飯塚委員、
島村委員、紀井委員、川久保委員、向井委員、角田委員、渡部委員、
深見委員、神保委員、船山委員、山田委員、妹尾委員、八十島委員、
沼井委員、西岡委員、戸高委員、露木委員、村松委員、佐藤委員

計24名

欠席3名

事務局：佐藤福祉部長

子ども家庭課（原田、斎藤、福岡）

障がい者支援課（臼井、星野、田口、飯沼、伊原）

ふじさわ基幹相談支援センターえぼめいく（吉田）

計10名

傍聴者：3名

1 開会

(事務局：臼井)

藤沢市障がい者支援課長の臼井でございます。本日もお忙しい中ご出席をいただきましてありがとうございます。早速ではございますが、開会に先立ちましてご報告とご確認の時間を頂戴いたします。1点目として委員の出席状況につきましてご報告をいたします。委員27人中、出席委員が24人でございます。この会議においては会議の成立要件はございませんので、あわせてご案内いたします。2点目として、会議の公開についての確認となります。この会議は原則公開としております。傍聴の方はあらかじめ入室をいただいておりますのでご了解ください。3点目として会議の進行に関してのご案内となります。本日は会場16人、Web参加が6人のハイブリッドでの開催となります。円滑な進行にご協力くださいますようお願いいたします。4点目として資料等の確認でございます。資料につきましては、これから読み上げて参りますのでご確認をお願いいたします。

- ・令和6年度第2回藤沢市障がい者総合支援協議会日程
- ・2024年度（令和6年度）総合支援協議会委員及び事務局員名簿
- ・令和6年度第1回藤沢市障がい者総合支援協議会議事録
- ・資料1-1 第1回ふじさわ障がい者プラン検討委員会実施報告
- ・資料1-2 第2回ふじさわ障がい者プラン検討委員会実施報告
- ・資料2-1 第1回相談支援部会実施報告
- ・資料2-2 第1回連携支援部会実施報告
- ・資料2-3 第1回就労支援部会実施報告
- ・資料2-4 第1回生活支援部会実施報告
- ・資料3-1 専門部会実施結果
- ・資料3-2 医療的ケアに関する協議の場について
- ・資料4 日中サービス支援型グループホーム事業の評価について
- ・資料5 令和6年度第56回社会福祉大会のチラシ

- ・追加資料1 第2回連携支援部会実施報告
- ・追加資料2 第2回就労支援部会実施報告
- ・追加資料3 第2回生活支援部会実施報告。
- ・性について（研修会のチラシ）
- ・藤沢市スポーツシンポジウム2024（チラシ）
- ・藤沢パラスポーツフェスタ2024（チラシ）

以上でございますが資料に過不足等ございましたらお声掛けください。それではここからは進行を齊藤代表にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

2 委員紹介

（齊藤代表）

では、ただいまより第2回総合支援協議会を開催したいと思います。早速ですが、現時点でまだ選出されていなかった委員さんがいらっしやって、それが今回決まったということで発達障がい者支援協議会から佐藤委員が選出されました。一言ご挨拶いただけますでしょうか。

（佐藤委員）

ただいまご紹介いただきました。母体としては藤沢相談支援ネットワークで選出母体としては藤沢市発達障がい者地域支援会議の方から選出をされて参加をさせていただいております佐藤です。この協議会においては相談支援部会の代表も兼ねての参加になります。よろしく願いいたします。

3 報告事項

- （1）ふじさわ障がい者プラン検討委員会の実施結果について（資料1-1、1-2）

（齊藤代表）

それでは続きましてですが、報告事項に移りたいと思います。

報告事項の1、ふじさわ障がい者プラン検討委員会の実施結果についてということで、資料1-1と1-2をご覧いただきながら、事務局の方でご説明をお願いしたいと思います。

(事務局：白井)

白井でございます。本日は高山委員、プランの検討委員会の代表をしていただいておりますが、ご欠席ですので事務局の方で代わりにご報告を申し上げたいと思います。障がい者プランにつきましては昨年度、中間見直しを行っておりまして、今年度から見直し後の計画ということで事業の進行管理と次の継続、策定に向けての課題の分析評価の役割を持っております。資料1-1に基づきましてご説明いたします。第1回の会議につきましては5月16日に開催をいたしました。新たな委員任期となりましたので、代表選出ということで高山代表と戸高副代表が選出されまして、報告事項として、検討委員会の設置目的と障がい者プランの法的な位置づけ、障がい者プランは障がい者計画と障がい福祉計画と障がい児福祉計画という三つの計画を合わせたものでございます。それぞれ法的位置付けがございますので、そちらのご説明、それから中間見直しでどのような施策の取り組みが新たに見えたかとか、どういうところを重点に進めていくかというところについて、前の計画からの変更点の確認を行いました。共有事項としては、この会議によってそれからオブザーバー参加の承諾を受けていたものでございます。委員からは評価方法がありますとか、オブザーバー参加に関して傍聴等のサインの確認などの質疑がございました。次に資料1-2に基づきましてご説明をいたします。第2回の会議につきましては8月26日に開催いたしました。報告事項といたしましては、見直し前の計画に位置づけられているものになりますが、令和5年度の事業の実績についての説明を行いました。5年度までの計画については実施主体、主に障がい者支援課や市の他の課の取り組みになりますので各課が自己評価した結果に基づきまして、できていない事業を改善していこうという評価手法で行った評価結果についてご説明を行いました。委員からは事務手続きについては、やれて当然であるので評価が甘いといった御指摘を初め各事業内容の確認をいただきました。協議事項といたしましては、中間見直し後の評価手法についての検討を行いました。これまでは自己評価の達成度でありましたので、今後は活動の結果や成果に基づいてどのような状況にあるか、取り組みができていないか、効果が

あるのか、といったところを確認するモニタリングに改めていくということについても協議を行ったものでございます。また施策の中心となる取り組みを選定して、指標を設定するという事で評価とか分析の内容を掘り下げていこうということについても協議を行いました。K P I という重要業績評価指標というものを設定しまして、その取り組みがうまくいってれば、例えば障がい理解が進むというような形のシナリオに基づく評価としてやっていくという案でございます。委員からは成果指標として、例えば講演会の参加者数とか、アンケートの結果なのか、といった成果のレベルの置き方や検討の機会も限られておりますので、どのくらいの数の事業を掘り下げるのか、といったことについての意見がありまして、次回10月21日の会議において、主に掘り下げる事業の選定ですとか、評価指標等についても協議を進める予定となっております。私からは以上でございます。

(齊藤代表)

はい、ありがとうございます。ただいまプランの検討委員会の方の報告をいただきましたがこれにつきまして何か、ご意見ご質問等ある方いらっしゃいますでしょうか。では、とくになければ、次に行きたいと思えます。

(2) 各専門部会の実施結果について (資料2-1~2-4)

(齊藤代表)

では次に報告事項の2、各部会専門部会、それぞれのご報告をお願いしたいと思います。まずは相談支援部会からお願いしたいと思います。佐藤委員お願いできますでしょうか。

(佐藤委員)

はい。それでは、相談部会の佐藤から相談部会の報告をさせていただきます。資料としては資料の2-1と、追加資料の1になります。第1回に関しましては、7月30日に第1回を実施しております。簡潔に報告をさせていただきますので主だったものは資料の方ご覧いただければと思います。第1回目に関しては他の部会もこれを活用していると伺っていますが、ちゃんと活用させていただいて第1回目については相談支援体制の強化ですとか推進に対してどういったことが必要なのかということをお各委員から様々な意見を出していただきました。その中で資料1の2面になりますけれども、意見として多かったのが相談支援体制の整備、あと安全安心プラン、1番にも関わりますけど計画相談

利用者数の増加というところ、あとは機関との連携、相談へのアクセスなどが挙げられておりました。この中でこの後の部会の方からも少し発言があるかもしれませんが、第2回に向けては安全・安心プランのことを進めていこうということで、事務局とも話をして第2回の方に進んでおります。第1回目の4番の他機関との連携みたいなところでは、連携部会との共同ですとか、連携部会にもご議論いただくことが今後ひょっとしたら出てくるかもしれませんので、そのあたりは追って報告ができればと思っております。続いて第2回目追加資料1になります。第2回目は9月26日に実施をされております。先ほども申し上げました通り第2回目に関しましては、安全・安心プランについて議論しました。これも各委員から、安全・安心プランが使用されていない、なかなか広がっていないという状況を踏まえて、どういったことが原因なのか、それに対する対応策はどういったものがあるかということ委員の中でいろいろ意見を出し合って議論していきました。そのことの内容については記載の通りになっておりますのでご覧いただければと思います。第3回目に向けては、まず周知をしていくということで、新たな周知の場を作っていくということよりは今藤沢市内にある合議体をうまく活用しながら周知活動をやっていくということと、指定特定の連絡会等もごございますのでまず相談支援専門員からそういった安全安心プランの作成について勉強会をしていくと、その勉強会を進めるにあたって、まずは委員で安全安心プランを作成してみて、それを踏まえて、今後の周知方法や記載量を修正とかブラッシュアップみたいなものになっていけばということで第2回目を終えています。簡単ですが、相談支援部会の報告は以上になります。

(齊藤代表)

ありがとうございます。各部会に関してのご意見等は一括して後ほどお願いしますので、続いては連携部会になります。妹尾委員をお願いします。

(妹尾委員)

妹尾と申します。連携支援部会について報告をさせていただきます。第1回8月5日ということで資料が2-2になっております。第2回は今週の月曜日でしたので資料としては間に合っておりませんが、報告は資料3-1の表の中に入れ込んでいただいておりますのでその二つをご覧いただければと思います。まず1回目は8月5日、連携支援ということで非常に幅広い内容で各委員から助言をいただいていた検討したい内容について、まずは連携というキーワード

ードを共通言語化するために、連携という言葉に期待する各位の像をすり合わせました。また続いて2回目の方は支援という言葉についても、連携を支援するとは一体どういうことなのかというような話をしています。その後に各委員会から委員の方から出していただいたキーワードについて整理をしていきました。主にどんな相手と、誰と誰が連携するのかということで、何のために連携するのか、どのように連携するのかというようなことをジャンルに分けていったという内容なのですが、簡単に紹介しますと例えば誰のために、何のために、ということで在宅にて支援を受けている方や、それをしている在宅のケアラーの方など、あとは医療的ケアの方のためとか、学齢期の子、縦串、横串をしっかりと作るための連携や、事業所と学校がうまく連携するための方法とか、高齢障がいを予防するための連携が必要なのではないか、また誰とかということで介護保険とか包括支援センター、学齢期のお子さんがある家庭と教育と福祉のための連携ということで、国の方での提案をしているトライアングルプロジェクトというようなことについて委員の方からご紹介をいただいています。このようなことのために、どういうところから我々が手をつけていくかという宣言を整理していく中で、他職種連携ということと特にそこに学校教育を含むというようなことを今年度は取り組んでいきたいと共通認識に至りました。今回2回話をしまして、そもそも違う分野から集まった新しい仲間の中で話を進めていくということは、また連携するということについても非常に似ているという重要な気づきがあって、一つはやはり共通言語を作るということと、それを見える化するということ、それをうまくしないと違う分野の人たちがうまく連携するにあたって手探りになるのではないかと、そういったことを意識しながらこの回を進めながら連携というものについて考えていきたいなと思っております。簡単ですが、報告は以上です。

(齊藤代表)

はい。ありがとうございます。それでは続いて就労支援部会、船山代表お願いいたします。

(船山委員)

就労支援部会について私は藤沢市就労福祉連絡会からの選出となっております。船山です。報告させていただきます。資料の方は2-3になります。第1回就労支援部会は8月7日に開催されました。ここでは他の部会もあってマンダラートという手法を使って地域の障がいのある人たちの働き方についての抽

出を行いました。委員の方達からは様々な意見が出ておりました。やはり企業の方が障がいのある方達を知る機会が少ないことは障がい者雇用も難しくしているところがあるのではないかとか障がいのある人たちが働く上で衝突するような課題だとか、暮らしの中での課題みたいなものが働くことに対して少し問題になっているのではないかとか、企業さんが障がい者雇用をする上でいろいろな不安があるだとか、そういった部分に対して話がしっかりできてないのではないかとか、そのような意見も様々に出ていてその中で六つの課題が抽出されたことになっています。優先的に考えていけないのが障がい者の雇用支援です。障がい者の雇用支援というのは、障がいのある方達を雇用する企業への支援も含めて当事者の方達も当然働くための準備だとか、働き続けるためにどうするかだとか、そういったところに対しての支援も必要だと考えております。今藤沢市内に就労系の事業所が多くなっており、就労移行や就労A、B等を合わせると60近くとかなり多くなっております。そういった中で、施設の中でトレーニングする職業準備業務、職業準備に対しての支援をするというわけではなくて、企業の中に入って仕事をするための準備みたいなものをするような場があるといいのではないかという話が出て、職場体験実習というものを実施していきたいというような話をしていきました。また、やはり企業の方達も含めて一般市民の方達も含めて、障がいのある人達がよく就労支援をしていると、どういう仕事ができるのだろうか、障がいのある人達にどういう仕事をしてもらえるのだろうかとか、例えばどんな配慮が必要なのだろうかとか、そのような質問をされることがとても多いです。そういった中で、障がいのある人達のことを知ってもらうための場みたいなものも必要なんじゃないか、という意見もあり、さらに困難ケースへの支援ということでやはり働きたいという思いはあるのだけでもその職業の性質とか、また企業さんもこうしたいという思いはあるのだけれども、どのような形でこうしていけばよろしいのかなど、そういったところの支援も必要だと考えております。また先ほど申し上げました通り、事業所が非常に増えてきていますので、地域のサービス提供事業所のサービス提供の質の担保も地域で考えなくてはいけないと思っております。就労アセスメントというものは、いわゆる職業能力の評価ということで、評価という言葉が妥当かどうかはいろいろあると思うのですが、障がいのある当事者の方達がどのような工夫をすれば働けるようになるか、どのような支援があれば働くことが可能であるとか、そういったような視点でアセスメントをしていきたいと思います、その人達も働く可能性を見出していきたいと思いますというよう

なアセスメントをする事業が来年度の秋に始まる就労選択支援といい、その就労選択支援に備えて、そういったアセスメント、どこの事業所、どこのサービス提供事業所に行っても一定程度のレベルでできるような状況にしていた方がいいのではないかと、また相談支援事業所等との連携も必要なのではないかと、このころでこんな事業だとか8050も含めた社会に対しての支援みたいなところも必要だろうというところで、この六つのところを優先的に協議していきましょうというところで1回目が終わりました。部会も企業の雇用支援ってところに関して焦点を当てて考えていきましょうということで9月27日に実施しました。まず協議会の鈴木副代表に来ていただいて、これもマンダラートという手法を使ってどういったところを優先して考えていきましょうというところをかなりマス埋めしていくような形でその課題抽出をしていったのですけれども、課題は結構クローズアップされてどういうところを中心に話し合っていくのかというところが話し合えてよかったと思っています。話の中ではやっぱり企業さんと障がいのある方達の接点をもっと増やしていかなくてはいけないという部分で市内に職場実習先を開拓していきましょうという話で、商工会さんやハローワークさんなんかの協力を得て障がいがある方達の実習の受け入れ先を探していきましょうというような話が出ておりました、以前コロナ禍前に1回このような事業を始めようとしたことがあります。その際には20数ヶ所の市内の企業より、障がいのある方達の受け入れをしてもいいというお話をいただいて、その企業さんに行政と一緒に私も行って話をし、障がいの方達を受け入れる上でこういうふうな配慮が必要ですよというような話をさせていただいたのですけれども、そういったことをコロナも少し落ち着いてきたというところで、もう一回再度始めていきたいというところで、第2回目のところまで構想は動き出しております。今年度は障がい者雇用促進法の改正があって、企業さんも障がいがある方達への合理的配慮が努力義務だったものが、義務になったというところでかなり大きな転機となっているのですけれども、そういったことも踏まえて、障がいのある方達がどんどん社会でその人らしく安心して働けるように、安心して輝けるように支援をしていきたいというところで、今後の職場開拓実習先を確保していくというような方向性で現在考えております。

(齊藤代表)

はい、ありがとうございました。それでは続いて最後の四つ目になります。

生活支援部会、戸高代表をお願いします。

(戸高委員)

精神保健福祉協議会の方から出ております戸高と申します。資料2-4、追加資料の3を見ていただければと思います。各委員さんから生活支援部会でどんなことを取り上げていくかということを挙げていただきました。皆さんもご存知だと思うのですが、全国で100ヶ所、2,000人の方が利用されている恵というグループホームが、9月から事業停止になります。神奈川でも7ヶ所程あり実際に藤沢で利用されている方も13名いらっしゃっていて、この方達はどうか更新するかという話がありました。元々日中サービス支援型共同生活援助を作り上げる時にこれはグループホームなのか仕様としてはかなり議論がありました。結局グループホームの枠の中にに入れてきており、ただしそういう思いがあったので、地域評価型サービスにする上書きに、サービスの質の担保を図る観点から地方公共団体の設置する協議会等に対して定期的に介助事業の実施状況の報告をし、協議会等から評価を受けるとともに評議会から投稿の必要な要望、助言等を聞く機会を設けなければならないというのは、これを示しているものです。この協議会の中でもその辺のところをちゃんとやるべきではないかという意見が出て市の方で基本的なものを作っていこうとしたのですが、神奈川県が来年7月27日に日中サービス支援型共同生活援助を作るときの利用相談の書式を作っていくということで、それ以降の新しい事業所に関してはそういう報告書を出さなきゃいけなくなり、このまま協議会又は生活支援部会の中で取り上げていく必要があるのではないかということで、事務局の方から言われてそれを報告し検討するということになっております。先ほどあった情報チームが挙げた中で、6つのカテゴリー「日中支援型グループホームのあり方」、「訪問介護・在宅介護の支援の強化」、「障がい者家族の支援対応」、「重度化高齢化の対応」、「事業所の体制強化」、「地域関係機関との連携」は大事なところであるため、生活支援部会ではそういったものを中心に伝えることも並行してやっていくということを確認しております。藤沢に9ヶ所の日中支援型のグループホームがありますのでペーパーの事前調査をやってどういう視点で関わっていったらいいかということも含めて検討しています。これまでは3回しか受からないということで、どこまでまとめられるかわからないですけども議会の所で、その報告を受けながらこれから報告に対する対応のところも論議していく予定でおります。以上です。

(齊藤代表)

ありがとうございました。各部会から報告をいただきまして皆さんからのご意見等の前に、報告の中にも出てまいりましたが、マンダラートという手法について鈴木副代表にご協力いただいているということもございますので、その辺の説明をしていただければと思います。

(鈴木副代表)

鈴木でございます。少しお時間頂戴して、各部会でご活用いただいたマンダラートという手法について簡単に説明をさせていただきます。まずマンダラートというのは、複雑な課題になる、あるいは複雑な事象を作り上げている要旨や構造を分解して、それぞれの問題課題を作り上げているものを「見える化」していくといった手法でございます。また備える問題がある事象を作り上げているそれぞれの要素、あるいはそれぞれの小さな課題、その課題にもそれぞれに作り上げている問題や課題があるわけです。またそれをさらに「見える化」していく、ということをしていくと一つの問題課題が何で形成されているのかということがはっきり見えてきます。そうするとはっきりしてきたものに対して明確な課題設定ができる、といった手法となっております。協議会の場ではどうしてもその抽出される課題というのが抽象的になりがちです。その抽出された問題課題が抽象的だと、そのために設定される課題というのも、ときにぼやけてしまうということがあるわけでそうすると結局「課題がある」という共通認識が持てたような意識で終わる。ただし、実際には抽象的な問題課題の把握でそれぞれがそれぞれの解釈の中で問題課題を理解しているわけですから、実は共通認識を図れてないこともたくさんあるわけです。結果的に解決しない。ところが協議会というのは、地域の問題課題を「見える化」する、具体的に「見える化」するということが重要になるわけですし。その一つの有効な手法として今回マンダラートというものの活用をしているということでございます。ですから就労支援部会の中でも前回議論を全てマンダラートで整理をするということをしてみました。そうするとその議論がある一つの課題をどこに位置づけるのかということが見えてくるというわけです。そうすると明確な課題として、次はこれをやらなきゃいけないということが就労支援部会の中で最終的に一定の結論として抽出されます。そのため、このマンダラートは1回使って終わりというものではなくて、できればその具体的に何をやるかというところが見えてくるまで使っていただく、そこまで使えるツールだということもぜひ

ひご紹介できればなど考えております。本来であれば各部会に入らせていただいて、お助けできれば一番よかったですけれども、今回就労支援部会の中で少しモデル的に進めることができたのかなと思いますので、ここはぜひ事務局の皆さんも就労支援部会の議論の整理の仕方ということでご参照いただいて、少し活用することをご検討いただければと考えております。以上でございます。

(齊藤代表)

ありがとうございました。ある意味アセスメントのツールでもあるのだなということに理解していいのかなと思います。そのままモニタリングにも使っていけるということなので、非常に具体的な結論が出しやすく進んでいくうちにまた課題が変わってきますから、それをモニタリングしていけばいいということで、多くの人が集まると共通言語が難しいというところがありますので大変効率が良いのではないかと思います。3年以内に何か結論を出すというメールをいただいている各部会もありますので、その辺具体的にやっていければなと思いました。ありがとうございました。それではここまでの各部会報告についてご質問等あればお願いいたします。

(川久保委員)

自閉症協会の川久保です。連携支援部会で学校との連携は協議以降、協議課題となりましたけども、今後も連携支援部会にアドバイザーとして市の教育委員会においでいただきたいと思っております。文科省が出しているトライアングルプロジェクトは連携部会で提案いたしましたが、全国の良い事例とかそういう支援、ぜひ学校教育のアドバイザーのチーム、教育委員会も呼んでください。よろしく申し上げます。

(齊藤代表)

はい、ありがとうございます。連携支援部会についてのご意見ということでした。連携というテーマですので、教育に限らずいろんな部門が連携に必要でして、大きくどこかで取り扱っているのが気になっているところとして、本当に教育とかだけでなく、あらゆる部分も含めての連携ということになりますので今回切り口で言えませんが皆さん各立場でご協力いただければと思いますので、その辺もまた何かの機会にお話しいただければと思いました。今の意見に対して連携支援部会が先日行われて、そこでの議論では誰に来て欲しいのかと

というようなことは特にまだいってなかったので次回以降の検討事項かなと思ってお聞きしました。では種田委員をお願いします。

(種田委員)

藤沢市肢体障がい者協会の種田と申します。質問なのですが、就労支援部会の方でこのようなご説明していただきましたが、「現在就労支援の事業所は63ヶ所まで増えている」とのお話がありましたが、就労支援といっても就労移行就労支援のA型B型もあり、もし少し内訳のデータがわかればお尋ねしたいと思いました。

(齊藤代表)

はい、船山代表よろしいですか。

(船山委員)

ご質問ありがとうございます。おそらく業者の方が正確に数字を把握しているかとは思いますが、就労移行は21ぐらいだったかなと思います。就労Aが3つ、就労Bが残りとなりますので30数ヶ所がBという感じだと思います。藤沢市日中活動支援部門所のガイドブックが毎年更新されているみたいで、それでおそらく最新の数がわかるのではないかと思います。就労Bは相当増えています。前年度に比べても4つぐらい増えているので増加傾向です。

(齊藤代表)

はい。ありがとうございました。他にご意見、ご質問ある方いらっしゃいますか。

(島村委員)

藤沢市肢体不自由児者父母の会、島村と申します。相談支援の安全・安心プランのことを検討している中で、個人情報流出が不安だという意見が確かあったと思うのですが、この安全安心プランを集約するというか、管理をどうされる予定でしょうか。

(事務局：臼井)

事務局、臼井です。安全安心プランについては、基本的には管理は難しく、というのは支援する方に持っていていただかないと支援ができないので、あくまでも他の人に渡さないという前提で当事者の方ご家族の方がお渡しいた

だくという形です。そのためそこにお名前が出る方は共有して持っていていただきたいですし、その方が個人情報に不安があったらお渡しできないという形にはなってしまいますのですけれども、その方がしっかり管理をしていただくことをお願いしてお渡しするというを前提にしております。行政の方は障がい者支援課と危機管理課の方でしっかりと管理をして参ります。以上です。

(齊藤代表)

島村委員よろしいでしょうか。はい、では一度10分間程度休憩を取らせていただきたいと思います。11時再開にいたします。よろしく申し上げます。

(休憩)

4 協議事項

(1) 各専門部会の協議事項について(資料3-1、3-2)

(齊藤代表)

それでは、再開したいと思います。次に協議事項で、各専門部会の協議事項についてのこととなりますので事務局から説明をいただければと思います。お願いします。

(事務局：白井)

事務局白井です。報告事項の中でもいくつかお気づきなところもあったかと思うのですが、今日議題とさせていただいた趣旨は3点ありまして、部会はそれぞれ四つにわかれてはいますけれども、共通で提案されている事項の整理したい、というのが1点ございます。2点目は他の部会に協議をお願いしたい内容でありますとか、一緒に考えていただきたいというようなものがあれば、そうした課題を洗い出したいということと共有していただくということ、それから3点目については障がい特性とか地域での課題の観点からこの部会でこんな視点で考えてほしいということがあればご意見をいただきたいというのがこの協議の趣旨でございます。以上です。

(齊藤代表)

はい。ありがとうございました。3点趣旨に関する説明がございました。この後、この3点に関する協議を進めていきたいと思うのですが、まず1点目の共通の協議として提案されています、医療的ケアについて事務局の方から経過をお願いします。

(事務局：白井)

いわゆる医療的ケアというキーワードが生活と連携の部会でキーワードとして出てきております。多分安全・安心プランの中でも、医療的ケアは重要なウエイトを占めているところになると思いますので、そういったところと協議会の検討経過も踏まえまして少し別のご提案をしたいと思ひまして今お時間をいただいております。医療的ケアが重ねてのものになりますが事務局としても重要な課題であると認識をしております、結論から申し上げますと来年度新たな協議体を立ち上げる方向で今後調整を進めてまいりたいと考えております。予算要求の方も今頭出しをしているところでございます。それでは資料3-2に基づいてご説明申し上げます。これまでの経過につきましては、昨年度まで重度障がい者支援部会が以前ありました。その中で医療的ケアの課題検討していただいて来ておひまして、そうした中で令和4年度に部会から協議会の方のご決定をいただいた上で、市長宛てに重度心身障がい児者の支援に関する提言書というのをいただいております。提言書ですので、この協議会から市にこういうことをやりなさいという提言をいただいております、検討の場というか、検討の役目を市の方にバトンタッチをいただいている状況です。医療的ケアについては難病対策地域協議会や令和3年にケア児等支援法という法律が制定されてから、障がい児の部分についてはコーディネーターさんの配置や取り組みは進みつつあります。しかし委員さんから医療ケアの話をいただくということはまだ達成度は低く課題であると思ひしております、そうしたところを踏まえて提言書以降、医師会の先生とか、模範の看護師さんの連絡会の方とも意見交換をしてまいりました。支援機関として、例えば医ケア児支援センターを立ち上げた方がいいのかということも含めて検討はしてきたのですが、この後前提としてお話をしたいことが課題になっていてなかなか進められなかったという状況です。まず医療的ケアについては、世代ですとか、要は0歳児ですね。子ども医療センターから退院してくる時に医療的ケアが必要という方もいますし、学校に上がる時に医療的ケアが必要という方もいらっしゃいます。また高齢。要は介護の状態でも医療的ケアが必要、在宅医療が必要という方もいらっしゃる、なかなか一律な議論が成立しづらい状況にあります。それか

ら医療的ケアのご家庭においてはケースの特殊性ですね。同じ病気の方がそんなにいらっしゃるわけではないので、なかなか家庭の状況まで含めていろんな課題を共有できる人がやはりいないでありますとか、そうした状況の中で対応がやっぱり後手に回ってしまい事前にできていないので、緊急に対応しなきゃいけないというところの差がとても大きく一つ一つのケースの差がとっても大きいというところがあります。加えてそういったケースの事例検討等を行う中では、制度面と個別の家庭の支援の状況における問題点が混ざって上がってくるというところもあります。一番大きいところは、先ほど申し上げた0歳の時と、15歳、小児科から成人科以降としていくときで、支援する人がガラッと変わってしまう状況があります。要は私が1人、この方にお話を聞いたとしてもこの方は15歳までしかいない、という状況があって共通の認識を持つとか共通の課題として捉えるというのは難しいとの前提があると思っております。そうしますとこの前提を基にすると、要は一つの部会で議論をするという範囲ではなくて、極端に申し上げるとこの協議会より大きい構成員で考えていかなきゃいけない場面というのが出てくると思っております。この分野で入っていないところを多く入れた中で議論をしていきたいと思っております。ですので、中止にならないようにこの総合支援協議会の専門部会ではしたる協議題として取り扱わず、障がい児者の医療的ケアを専門に取り扱う協議体を設置してそこでの議論をもとに協議会と連携をしていく体制で行ってまいりたいと考えております。しかし、大風呂敷をなかなか広げるまでの準備もありますので協議会の準備会をできれば来月からやりたいと思っております。一つは提言書に基づく具体的な検討項目議論を薄かったところとかあればもう1回見直しをしたいと思っておりますし、先ほど私の思っている協議体の体制をお話ししましたが、この体制を具体化するための検討にご協力をいただきたいと思っております。ご協力いただく方については前回ご提言をいただくところまでご議論いただいていた重度部会の方を中心にお声掛けをして進めていきたいと思っております。予算は今折衝中ということで当然申し訳ないのですが、手弁当でちょっとお付き合いいただく形になると思っておりますが部会の中での医ケアの取り扱いについてはこのような形で譲っていただけるとありがたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。以上でございます。

(齊藤代表)

ありがとうございます。重度障がい者支援部会から協議会報告をして、協議会から市に対して提言書を出すという形のものについて、医師会や訪問看護の

関係などいろいろ関連するところと協議をずっと続けてきていただいて今始点を作ってきていただいているという報告でありまして、一緒に行ってもう一回集まるというのはなかなか難しいので、まずは課題の整理、それこそ先程の問題点をあげることをちゃんとやった上で確認整理をしていくところから始めていきたいと思っております。元々認識によってはかなり間違っているものもあり個別性が非常に高いものを一緒に全部まとめて話をするのは難しいので、あの準備会の中で協議していただければと思いました。ただいまのことについて何かご意見、ご質問があればお願いしたいと思っておりますがいかがでしょうか。村松委員をお願いします。

(村松委員)

A L S 協会の村松です。今、臼井課長さんの方からお話があった内容については本当に全面的に賛成いたします。この辺の問題意識というのはずっと思っていて、初めのその説明としては非常に整っていて、とても良かったなと思っております。今後ともよろしくお願いしたいと思います。以上です。

(齊藤代表)

はい。ありがとうございます。今後ともまたご協力をお願いできればということもあると思いますので、よろしく願いいたします。

(佐藤委員)

一点確認です。臼井さんの説明ありがとうございました。新たな協議体ということなので、藤沢市の関連会議の関連図でいくと、私は今回の選出母体となっている藤沢市発達障がい者地域支援会議の辺りの位置付けで、協議体があるという理解で合っていますでしょうか。その点の確認です。

(事務局：臼井)

申し訳ございません、正直申し上げてまだイメージはしてないです。ただの関連会議体の中というのは当然に位置づけられるものでありますし、議論の中身によっては先ほど大所帯でという説明も申し上げたのですが、議論は多分世代ごととか、疾患ごととか細分化された中でのケース対応も含めた議論になっていくと思うので、場合によっては子どもであれば児童、それから教育というところに情報提供を行い連携するところも様々になろうかとは思いますが。以上です。

(齊藤代表)

はい、ありがとうございました。今年度は準備会ということでその辺のことも方向性も検討されると思いますのでよろしくお願いします。では続いて2点目の各専門部会の協議事項について事務局の方でご説明いただければと思います。

(事務局：飯沼)

障がい者支援課の飯沼と申します。それでは資料3-1をご覧ください。こちらにつきましては専門部会第1回、第2回の結果、またこれまでの成果と議題、また優先的に扱うテーマが協議事項として上がっていると思います。先ほどの専門部会の報告の部分でもありますけれども、こちら一覧としてまとめさせていただきました。相談支援部会におきましては制度の認知度上昇のための周知方法の検討、また安全安心プランの様式の見直し。地域の相談支援体制の整備。こちらについては相談員の増加及び質の向上、アウトリーチだけを課題といたしております。続きまして、連携支援部会におきましてはここまでの議題の中で、第2回目の中で連携に対する理解、認識の共有、すり合わせを行いまして、主たる協議方針につきましては多職種連携といたしております。続きまして就労支援部会の方におきましては、企業側との接点を作っていく必要性を共通認識として捉えておりまして、商工会議所協力を得て、会員企業にアンケートを配布し、受け入れ可能企業の調査を実施しようとしております。既に生活支援部会におきましても実態把握の必要性を感じまして、調査を予定しております。内訳としましては、グループホームの市内の設置数であったり、藤沢市の利用者が利用しているグループホームの数、1人当たりの経費であったり、利用者の属性、年齢、障がい種別など、そういったものを支援が受け入れるグループホームがどのようになっているのか調査する必要性がありまして、それを調査予定しております。グループホームの評価につきましては、日中サービス支援型共同生活援助における協議会の協議会等への報告書に基づきまして、こちら調査、評価を行っておりますが、それ以外に訪問調査を予定しております。その他の課題というところで、こちら相談支援部会から確認させていただきます。みんなの部会で連携するということからいきますと、相談支援部会につきましては学校教育と福祉のつながり、障がい児から障がい者へのつながり連携支援部会におかれましては学校教育との連携が必要、就労支援部会におかれましては事業所、企業の雇用の取り組みが連携として必要というこ

とも考えておりました、生活支援部会におかれましては民生委員や警察、自治会等の関係機関との連携が必要という声も上がっております。このような結果を踏まえまして、各部会に対して何か質問や、これを協議してほしいとかそういった意見をいただければと思います。代表の方から補足でもありましたらお願いいたします。

(齊藤代表)

はい。今各部会のご説明いただきましたが、各部会の代表から運営について補足の説明をいただけますでしょうか。まずは相談支援部会から佐藤代表、何かありましたらお願いします。

(佐藤委員)

特段付け加えるところはないかとは思いますが、先ほど齊藤代表もおっしゃっていた通り、安全安心プランに関しては当然防災とかシートでいうと3枚目のシートがそこに当たるものになっていますので、加えるのであればそういったところも少し防災に関しては防災関連との連携みたいなものも必要になってくるかというふうに思っているところです。相談は以上になります。

(齊藤代表)

はい、ありがとうございます。連携支援部会、よろしいですか。お願いします。

(妹尾委員)

連携支援部会です。課題協議事項ということで多職種連携と学校教育の二つ出ています。マンダラートを活用させていただいて、使いこなせていたかわかりませんが一応この課題を整理した中で、かなり多岐にわたり、出てきた中で一番多かったのが学校教育でした。多職種連携が次だったのですが、多職種連携というといろんなものが含まれてしまうのでその学校教育の学校と福祉とそれ以外のご家庭とかいろんなものが出てくるということで、多職種連携の中に括弧で含むというようなことでさせていただいたのですが、相談部会の方でも学校教育と福祉のつながりとか書いていただいていますけど、ここはやはりかなりハードルが高いと感じる場面が多いのかなと理解をしています。そのため先ほどの川久保委員からのご提案もあったのかなと思っております。他の議会からも連携という言葉がたくさん入っていますので、そこはどのように連携

しやすくするための枠組みとかスキームを考えられるかということですのでそれは他でも汎化できるかと思っていますので、そのケースの一つとして学校を使っていくというイメージでおります。以上です。

(齊藤代表)

はい。ありがとうございます。続いては就労支援部会をお願いします。

(船山委員)

就労の方からは障がいのある人達の「働く」を支える時に、障がい福祉サービスの括りで言うと、いわゆる職業準備の向上のためには就労移行だとか、就労継続BとかAとか、そういったような事業があります。就職した後の支援というところでは就労定着支援という事業があって、それで就労移行は利用期間が原則2年間、就労定着というのは3年間とされているので、その後は就労援助センター、就労サポート生活援助センターというところに働いて3年目につないでいくということになっているのですが、その部分のつなぎつなぎのところの支援がなかなか円滑でないなというところがものすごく課題感を感じているところだなと思っています。そういった部分を他の職種、他の部分、例えば相談支援事業所さんなどと連携し支えていきたいと思いますというような話もあるのですが、いわゆる就労支援という部分とその人の生活を支える支援というところで、関わる事業所さんが支援の中身を切り分けちゃって、ここから先は知らないような話になってしまうというところもあったりし、そういった部分がないように事業所さん自身がそういった部分で不利益を被らない、不安にならないような体制がとっても必要だなと思っています。そういう意味では連携支援部会だとか、相談支援部会なんかとは共同して考えていかなきゃいけない課題感だと思っていますし、またグループホームに住んで働いている人達もたくさんいらっしゃるので、やっぱり「働く」を支えるというところではいろんな部会と共同して話し合う部分が必要なんじゃないかなと思っています。以上です。

(齊藤代表)

はい、ありがとうございます。では最後に生活支援部会、戸高代表をお願いします。

(戸高委員)

先程の中でも報告したのですが、関係機関との地域生活支援するにあたってどう地域の中で関わっていくかという連携というものがなければできないということで、今後、部会の中でこの連携というのはどういうふうにするかという準備を進めてないので、上がっているものに対しては具体的にどのように回していくか、どのように関わっていただけるか検討していきたいかなと思っています。

(齊藤代表)

ありがとうございます。では皆さんからご意見をいただこうと思うのですが、その前に部会の運営にもご苦勞をかけたということで鈴木副代表の方から全体通して何かあればお願いします。

(鈴木副代表)

先程から非常に連携というキーワードが飛び交っているわけですが、連携とは一体何なのか、辞書で引くと連絡を取り協力することとあります。しかし、ただそれだけなのです。それが課題になっているということが実は肝であって、なぜその連携がうまくいかないのか、あるいはスムーズにいかないのかということを考えた時におそらく連携というキーワードで議論し続けると、「協議の場を作りましょう」で終わるとおもいます。「協議の機会を増やしましょう」、「協議の場を作りましょう」、「協議を進めるための共通のアセスメントシートを作りましょう」。しかし、これで本当に解決するのでしょうか。おそらく多くの議論がされてきて、多くのものを作られてきて、おそらく今もまだ同じ議論をするのだと思うのです。重要なことが何かというと、連携と呼ばれる中で何が行動されているか、何がうまく行動されないか、これを洗い出さない限り、永遠とこの議論が続くわけです。例えば、「福祉と教育がうまく連携できない」。ずっとどこの地域も言っています。でもそれが一体何が行動されないから福祉と学校の間で連携がうまくいかないという表現になっているか、ここを明確にしない限り問題解決しません。例えば、それは「学校側から子供の発達や学習に関する個人情報保護の観点から流れてこないことによって福祉の方で支援の課題が十分に抽出できない、このことが問題だ」、あるいは「学校と福祉から学校の現場に情報を渡したいのだけれども一体学校の誰に渡していいかわからない」「その情報が学校の中でどう取り扱われるかわからない」、あるいは「情報を委託してもその情報が結局活かされないまま放置されてしまう」。まず何が問題になっているのか、何がうまくいかないのか。

ここをそれぞれ議論しない限り連携の問題課題は永遠に続きます。そして結局、「協議の場を作る」、「共通のアセスメント表を作る」、それを公表する仕組みをつくることだと思います。でもそれではおそらくうまくいかないです。うまくいっていたら、今頃それがモデルになっていて、各地域に広がっているはずですが。そうっていないということは、各地域、各機関の各コミュニティにおいて連携と呼ばれる交流をうまくさせないことがあって、そこを洗い出すべきだと私は思います。連携という言葉が何かいろんなことをうやむやにしている気がしてならないのです。ぜひそこを洗い出す協議を私はしていただきたいです。そこが明確になると、そこに対するものが明確になるはずですが。

(齊藤代表)

はい、ありがとうございます。もう何十年と連携と言ってきて、何も変わっていないという現状は確かに本当におっしゃる通りなのでここで何か結果を出していくために心を新たに出来ればと思います。どうもありがとうございます。ではこれについてご意見ある方、お願いします。

(戸高委員)

鈴木副代表の話を聞いていて、まさにそうだなと、仕事に入ってからずっと連携というふうに言われていて大事だよなどと、その共通認識は皆さんあるだろうなどと、私も今そう思っています。しかし、連携がうまくいかない理由を考えていくと、やはり原因が変わっていき制度も変わっていく利用者さんの状況だと思います。いろんな環境とかカルチャーとか利用者さんに何かついていけない部分もあってそこに対しての対策をしようと考えた時に、お金や人の面で人の善意だけでは成り立たない状況になっていくという、そういうところが多分問題だと考えています。今仕事をしていて感じるのは、昔は社会支援が少ない時には一つの事業所でいろんな事を利用者さんと収入を考えて支援していたという時があり、そこからいろんな社会支援ができてきた時にここから先はこの事業所がやるべきといったところで、行政的な社会的なそういうような状況が事業所に対して行われているような状況で、何となく見えないところでそのような切り分け方がされていて、結果サービスを受けている利用者さんに不利益が生じてしまったりしています。この状況が今現状で生まれているから、連携が大事というのが何年間もずっと言われ続けていて、じゃあどうしようかというところで今副代表に言われたように共通のシートを使いましょうとか、共通認識って何ですか、情報共有でどういうふうに支援していこうかという

ころまで行くけれども、実際に動き出してやったときに、やっぱりどっかで切れられちゃうみたいなのところがあって。サービスを提供する側の都合でいろんなことがやっぱり決まってしまうというか、動いてしまっているような状況がやっぱりあるのではないのかなというのはとても感じているところで、そういった部分を解決できるような議論をしていけたらいいかなと思います。

(齊藤代表)

はい、ありがとうございます。なんかイメージががっちり具現化されたような感じのお話だったと思います。他にご意見ご質問ありますか。はい、お願いします。

(沼井委員)

学校に行ったとき、子どもの児童支援、学校業務の方じゃなくて生活指導とか、そういうところもなかなか入りにくいと思います。例えばお母さんお父さんは夜しか居ませんよ、とかね。現場はそういう時間に朝入ってきてくださいとか。その対応はつどいの会みたいな感じで、自分の授業をしながらそういうことも、子どもに関わる家庭に関わるということにならざるを得なかったのですけれども。例えば僕が最後にやったのが児童支援ということで学校に1人ずつ専任の先生を置いて、この人は授業を持たないで、さっき言ったようなお子さん、支援学級の子どもを含めて見ると、コミュニティソーシャルワーカーという方がいらっしゃいましてその方と連絡をするようなことで配置されていると思いますが、その方が配置されることによって家庭にそこまで踏み込まなくても、その方と情報共有をすることでまだ家庭の様子は知らされてくるみたいなことが実際ありました。子ども家庭課の配置だと思いますが、どこかに配置しないと取りかかりとして難しいのかなと思います。防災のことについても、危機管理課さんに福祉の担当の場を置くというような形で実際に動いていただくということが大事なのかなと思っています。

(齊藤代表)

やはり事業者の縦割りというところがかなり活気になっている現実もあるかなと思います。人間の性で「自分の方で守りたい」というところもあるでしょうし、そこをどう打破できるかということかもしれません。はい。種田委員お願いします。

(種田委員)

藤沢市肢体障がい者協会の種田と申します。今回連携部会に入っておりますが、初めて参加しています。今回、学校教育との連携ということが、これまでのところで気になりました。私、藤沢市教育委員会の教育委員の会長を勤めております。いつも教育委員会で気にしているのは特別支援級の指導してくださる方にやっぱり研修が大切だなという点です。普通に教員の資格を持っていらしても、やっぱり特別支援の仕方とかを勉強してない方が入ったりするケースもあるので、いわゆる指導者の情報研修がとても大切だと思って声を出しています。そういうところも学校教育の人材研修とかでやっぱり福祉の方から関わっていくと子どもたちに関連するのではないかなと思いますがやはり行政縦割れなので、個人情報もありますし、不登校とかいじめの問題もありますので、やはりそこに障がい児が関わっていることがいろいろあります。そういう話を聞いたりすると、障がい児のことをわかってもらいたいなと思ってお話をしております。本当に人材研修というふうなところでは、交流、連携できたらいいなというも思っておりますので、またその辺ご検討いただきたいと思います。

(2) 日中サービス支援型グループホームの評価について (資料4)

(齊藤代表)

では次に今日は日中サービス支援型グループホームの評価についてです。事務局の方でご説明をお願いします。

(飯沼主任)

障がい者支援課の飯沼と申します。藤沢市における日中サービス支援型グループホームの評価について資料4の説明をいたします。こちら時間が迫っておりますので、手短かに説明をさせていただきます。初めに、日中サービス支援型グループホームにつきましては障がい者の重度化・高齢化に対応するため平成30年度障害福祉サービス等の報酬改定があり、創設されました。これも重度障がい者に対して常時の支援対策を確保することが可能となり、このことから施設等の地域移行の促進や、地域生活の継続などの地域生活の中核的な役割を担うことを一つのサービスとされております。市内におきましてはこちら創設後、現在市内に9事業所指定されております。次に地方公共団体が設置する協議会等への事業説明・報告についてです。日中サービス支援型グループホーム

は地域に開かれたサービスとすることで、当該サービスの質を確保するという観点から、地方公共団体が設置する自立支援協議会藤沢市障がい者総合支援協議会に対して、新規開始時の事業説明、業務開始後は年1回以上の事業実施状況等を報告することとされております。協議会につきましては、事業報告の評価を行うとともに、必要に応じて要望助言を行うことができます。これまでの藤沢市における事業評価につきましては協議会にて検討を重ねて市の報告様式を作成いたしました。これまで事業所からの報告につきましては3件、事前相談があつてこちらの評価を行っているのですが、業務開始後の定期的な報告がこれまで行われていなかったため令和6年度におきましては協議会から報告を求めています。今年度の評価のスケジュールでございますが、現在市内9事業所から報告をお願いしております。報告につきまして、12月に実施予定の第3回生活支援部会におきまして、評価を実施いたします。それで1月28日の本協議会の第3回目におきまして、生活支援協議会の結果を踏まえて最終的な結果として協議会終了後に評価結果を事業所へ回答いたします。この評価にあたりまして、県・市が定めた報告事項だけでなく、実際に事業所を訪問し、ヒアリングの実施を検討しております。このヒアリングのチェックもあわせて評価にいたりたいと考えております。ただし、こちらの9事業所、今年度全ての事業所を訪問することは難しいので、今年度は3件程度訪問する予定となっております。続きましてはヒアリングの総合評価に当たりまして、協議会委員からの事業所への意見、また質問も考えたいと考えております。現在グループホームの入居者はいませんが、例えば、障がい者利用者が入所してどのような対応をするかなど、各障がい特性の対応等、展望と地域活動における具体的な関わりをどのような形で実施してもらうかなど事業所への意見を求めたいと考えております。今月末までにご意見いただければと考えております。ご協力をお願いいたします。以上です。

(齊藤代表)

はい、ありがとうございました。これについては10月31日までに事務局へということでしたので、もう一度部会でご検討いただく中でぜひご意見いただければと思います。それについて何か、追加説明等ありましたら戸高代表の方から一言お願いできますでしょうか。

(戸高委員)

先ほど報告の中に入れていたのですが、生活支援部会員がそれに対する

評価をしなきゃいけないというかなり重いところなのかなと考えております。日中支援型グループホームができる時の論議は結構な論議を行った経過があるので、やはりそこをちゃんと見ていく必要があって、今回市がそういう調査を始めると様々な問題が浮上し、やはり日中支援型のグループホーム自体がどういう支援をしているかを見る部分なので何らかの評価をする重さを感じながらみんなで見ていって実態はどうかということと、やっぱりどのような評価で支援がされなきゃいけないのかというのが考えられたらいいかなと思っております。

(齊藤代表)

はい、ありがとうございます。何かこれについてご意見がある方いらっしゃいますでしょうか。

(紀井委員)

今の件ですけれども、恵の件で一応問題になっているのだろうと把握しているのは、食品に関しての問題とあと不正請求があったということと、あと不適切な支援だというふうに私は理解していますけれども、それ以外に何かありましたでしょうか。

(事務局：臼井)

事務局臼井です。特に表出した問題点に対して、どこを見てくれという事に対象を絞るつもりはなくて、昨年藤沢の独自様式作っていただく中でも、例えば入居期間が短い、入れ替わりが早い場合は支援力が足りないのではないかと、そういうことを見ようというようなお話を前提に作ってはきたのですけれども、入居者さんがいる場合はある程度わかりますけれども、入居者さんがいない、例えば医療的ケアが必要な方、ほぼ入居者いないですけれどもいないのでわからないのです。それは拒んでいるのかも知れないし、実際に希望がないのかもしれないのですが、そういう見えないところをイメージしていただいて、こういう人がいたらこういう課題が出そうだなと思ったら「いたとしたらどうされますか」とかそういうことも含めて、「10月末までにこんなこと聞いてみたら」ということをご意見賜ればと思っております。以上です。

(深見委員)

ヘルパー事業所連絡会から来ております深見です。この日中支援型のグルー

プホームに入られている方は藤沢のホーム以外、他市の日中支援型で暮らされている方もおられるかと思うのですが、その他市からの照会依頼というか、他市でも同じように調査をされているであろうと思うので、そういうところの情報をいただくことはできるのか、また検討されているのかというところを伺いたいです。

(事務局：臼井)

確かに調査、もう何年も前からやっているのでも要綱を見ているのですが、実際結果をいただけてはないので確認をしてみたいと思います。基本的には事業所単位なので援護の人は例えば、横浜援護の人が藤沢事業所に入っても横浜市から照会が来ることはないです。あくまでも、藤沢市の総合支援協議会は藤沢市にある九つの日中サービス支援型の事業所を眺めて意見を申し述べるという形になります。以上です。

(深見委員)

この評価の取り扱いについての確認ですが、総合支援協議会の議事録が公開されているようにこの評価結果についても公表されるものなのか、事業所がそれに従う強制力はないという話が出ていましたが、こういった評価が公表されるかどうかによってだいぶ緊張感も違うのかなと思うのですがどのようなことになるのかなと思って質問です。

(事務局：臼井)

臼井です。基本公表と考えていますし、県の方にも提出をする形になっております。

(齊藤代表)

では以上の点を踏まえた上で、10月31日までにご意見をいただければと思います。

5 その他

(1) 令和6年度第56回社会福祉大会について(資料5)

(齊藤代表)

続きまして資料の5以下です。各ご質問ご紹介等がございますので、担当の方手短にいただければと思いますが、社会福祉大会、資料5について社協の方でお願いいたします。

(露木委員)

藤沢市社協の露木でございます。貴重なお時間ありがとうございます。第56回藤沢市社会福祉大会が11月17日日曜日午後1時30分からこちら藤沢市役所分庁舎2階の活動室1、で行われます。第1部としては表彰式典。子どもや団体の方達への表彰です。メインとなります基調講演といたしましては地域共生社会推進室の室長の古郡様に来ていただいて、これからの地域福祉、藤沢の地域作りを考えようというタイトルでお話しさせていただきます。さらには座談会といたしまして、今現在各地域で活動されている方達、あるいは企業、そして若い方ですと高校生の方も応援していただいて、今自分達にできること、またこれから何ができるだろうというようなことを目的でお話し合いをしていただくような催しものとなっております。本日10月10日から申し込み開始で、会場は60名。あとはオンライン、Zoom提供させていただければと思っておりますので、各委員の皆様、各団体に戻られて周知の方ご協力いただければありがたいと思っております。私の方からは以上です。

(齊藤代表)

あとは3点ご紹介いただきたいと思っております。藤沢市スポーツシンポジウム2024について、種田委員からお願いします。

(種田委員)

種田は藤沢市障がい者スポーツ連絡協議会というところでも活動しております、その中で藤沢市スポーツ連盟に加盟しております。その中で年1回スポーツシンポジウムというのをやっております、今年は10月27日日曜日午後2時半から、藤沢市民会館小ホールでラグビー元日本代表の廣瀬俊朗さんに来ていただいて講演をいただき、第2部でパネルディスカッション。スポーツを通してできることでパネルディスカッションシンポジウムを行います。この中で、パネリストとして種田も少しお話する予定であります。お忙しいと思いますが、お時間ありましたらお願いいたします。

(齊藤代表)

続きまして、性についてということで、これは吉田さん、お願いします。

(事務局：吉田)

自分が所属している保健福祉会の方で研修会の部門を計画しました。題材としては性について。障がいがあっても豊かに生きるということで障がい者支援をしている中で、避けては通れないそういった性の問題というのもたくさんありまして、そういったことをもう知っているだろうとか、聞けないという部分もたくさんあるかと思います。会場が湘南台公民館ホールということで、95名の収容ができますので、多くの方の参加をお願いできればなと思います。よろしくをお願いします。

(齊藤代表)

最後にこちらのふじさわパラスポーツフェスタ2024。こちらも種田委員からお知らせを頂きます。

(種田委員)

ふじさわパラスポーツフェスタは、今回で6回目の開催になると思います。今回は秋葉台文化体育館で行います。今までずっと秩父宮の記念体育館で行われたのですが、今回は秋葉台文化体育館で11月24日曜日に行います。秋葉台でいいのは駐車場が利用していただくと、2時間無料になります。秩父宮はそういう駐車場の利点がないので、なかなか人が集まらなかったというところもあります。車椅子の体験ができ、義足体験もあると思いますのでよろしく願いいたします。どなたに来ていただいても大丈夫な、楽しんでいただけるバリアフリーのスポーツです。よろしく願いいたします。ありがとうございます。

(齊藤代表)

ありがとうございました。以上ご紹介いただきましたが、他にも何かお知らせありますよという方はいらっしゃいますでしょうか。

(向井委員)

藤沢ひまわり会の向井です。私どもの参加している、統合失調症の神奈川県主催、それから全国団体「みんなねっと」と言うものなのですが、そちらで11月14日に精神疾患の当事者への訪問支援・対応についてという催しをや

ります。県の開催ですので会場は川崎市高津市民会館というところでは電車ですと溝の口です。2年前の開催では私どもが主催でやりましたが今度は少し遠いのですが、関心のある方いらっしゃったらチラシが少しありますのでおっしゃってください。以上です。

(齊藤代表)

それでは本日の議題は以上ということになりますので、こちらで会議を閉会といたします。事務局に進行をお返しします。よろしくお願いいたします。

6 閉会

(事務局：白井)

本日は活発なご議論、貴重なご意見を賜りましてありがとうございました。次回のご案内になります。次回は年が明けまして1月28日火曜日、時間場所は今日と同じでございます。関連会議の資料や議事録にボリュームがあってお渡しできてないですけど、ファイルで入手できたものについては随時メール等で送らせていただきたいと思いますので、ご参考にしていただければと思います。それではこれで終了とさせていただきます。ありがとうございました。お疲れ様でした。

以上